

2021.08.01.

T.Konayashi

真夏の夜は二十六文字詩

7月になった。畑の野菜には「ありがたい存在」であった雨も、続きすぎると害が出てきた。トマトは病気になり葉は黒ずみ、実が腐り始めた。昔は晴耕雨読などと言って、雨の日は読書が良いと言われたが、何をするでもなく窓から外を眺めているのも悪くない。

雨の降る日は窓から眺め 軒端の雫を歌に詠む

世の中ではオリンピック・オリンピックと騒々しくなってきた。無理をしてまでやるべきものではないとする見方が増えてきたようだが、主催者側はやる気満々。

医学関係の専門家たちは「危険」を語るが、これらの専門家の見解を受けて組み立てられる施策には反映されて来ない。毎日の報道でこんな場面を見ていると、「行き着くところまで行かないと気がつかない」のかなと・・・。

世界の国から寄り集まって 作ろう東京変異株

70才で落語教室に通って、社会人落語の活動をしている会社時代の先輩と久しぶりにお会いした。

危険度の低そうな時間帯に、危険度の低そうなお店で、二人だけで会食と雑談。

定年退職後の足取り・暮らし方などを聞かせていただき、78才の明るさと熱心さをたっぷり吸収。

習い事から重ねた暦 じっくり続けりやまた愉快

何はさておき体が大事 充分休養また明日

健康でいられることで好きなことを続けることもできるし、日々を一生懸命・愉快地暮らすことが心の健康にもつながる。少々ではあるが、力をいただくことができた。

7月14日、豊洲文化センターで130回目の都笑亭(Twilight-tei とわいらいとてい)を開催。

コロナ対策ルールに従い、検温・消毒・マスク着用の受付で、客席の椅子は一つおきに座っていただく。

約90人のお客様に、無事楽しんでいただくことが出来た。気を許して笑える場所を求めている人がいるのだ。

べからず集ばかりでは楽しくないだろうなと思って、ご案内のハガキにしたための折り込み都々逸は「わくちん」。

忘れないでね口にはマスク ちょっとの油断が運の尽き

オリンピック開会式の日まであと何日、と騒ぐ声が日を追って高まってきた。とは言っても声が高まっているのはテレビの中だけで、一人一人の国民の声を代表しているものかどうかはわからない。

安心安全聞き飽きました 意味がわからず耳障り

ここまで来て発覚した致命的な問題で、主要な役割に就いている人の辞任が相次ぎ、今までどんな準備を進めてきたのかが疑われるような事態が発覚。しかも毎日続く33度を超える猛暑も追い討ち。

コロナ五輪に震える国に 力貸したり糞暑さ

感染・不祥事続出しても 頭下げればもうケロリ

海外から来た選手や関係者の中から感染者が出たり、訪日後に難民化を求めて行方不明になる選手がいたり、
「やっぱりね」と思わせるような出来事が出はじめてきた。選手村を封印すべき事態にはならないだろうか。

感染拡大五輪の村は 村ごと隔離の実験か

沖縄県の先島諸島に台風襲来。宮古島を中心に暴風被害が懸念される状態だが、それでも粛々と(?)進められるオリンピック準備。国中のあらゆるインフラをオリンピック開催に傾けて、台風被害に対応出来る力は残されているのだろうか、少々心配になってきた。「沖縄を見捨てるな」と言われることがないようにと念じて、折り込み「オリンピック」。

沖縄台風臨戦態勢 ピッタリ寄り添うクルーなし

そしてオリンピックは予定どおり開会式に漕ぎ着けたのだが、世界各国から集まった選手たちをコロナウイルスの渦中に集めて開く大イベント。

- <オ> おいで皆さんおいらの国へ オリンピックの大舞台
- <リ> 利害関係力学ゆえに 流会できない理由あり
- <ン> 雲表五輪が雲散霧消 運氣下がって運悪し
- <ピ> ピンチをチャンスにピシッと決めて ピッチャー試合にピリオドを
- <ツ> 次々感染広がるけれど ツキ剥げるまで続くのか
- <ク> くたばれウイルス国上げ対処 ロで治まりや苦勞せぬ

各国の首長がピストルを持って登場して、自国の選手の頭上のリングを打ち落とすというような恐ろしさを感じる大競技大会。少々心配しすぎでしょうかね、ウィリアム・テルさん!!

恐ろしいことリングを頭 ピストル打ちます国ごとに

そして、オリンピックが始まってみると、あら不思議。「コロナの危険の中でオリンピックを開くのは危険」と発言していた方が、何と……。50~60年前ならこういうのを「転向」とか「寝返り」とか言ったものだが

五輪反対していた人が 今じゃメダルの数数え

テレビのニュースを見ていると、オリンピックの報道ばかりでコロナの情報は三番目か五番目。感染者の総数を語る程度で、詳細の報道は少なくなった。今まで 15 分から 20 分かけていた「新型コロナウイルス関連」の報道はどこへ行ってしまったのか、今までが報道情報が多すぎたのか、もう重視していないということなのか?

オリンピックの勝ち負けばかり コロナの報道どこへやら

オリンピック選手・オリンピック関係者の中から感染者が出はじめた。報道される情報は「国名」と「人数」だけで感染の経緯や拡散の可能性への言及はない。国内での発生においても、都道府県単位では行われている県も一部にはあるが、国全体としては行われていない。具体例の詳細が一切報道されないの、ニュースを見て(聞いて)誰も驚きも緊張もしない。具体事例の紹介があつてこそ教訓の浸透が可能と考えるのだが……。

五輪感染詳細不明 誰が何してこうなった

観戦ばかりで騒いでいるが 感染どうしたどうなった

そして、冷静に考えてみると、オリンピックをやったことにより国家間の争いや国家内の紛争が解決したことは一度もない。なのに、美しいスローガンを掲げて高い金をかけて、本当に意味があるのだろうか?

復興・友情・平等・平和 金かけ五輪の間だけ

さらに、「災害からの復興」を高らかに歌い上げるオリンピック」とする声が永田町方面から何度も上げられたが、未だ復興途上にさえも辿り着いていない人達の気持ちは如何なものだろうか?と気になって仕方がない。致命的な打撃を受けた福島県の原発周辺に住んでいた人達の中は、未だに自分の家へ戻る事ができない人も多数いるようだ。「復興したことを世界に示したい」と言う政治家のメッセージに腹立たしい思いをしているのではないかと思う。

原発地域に戻れぬ人は 災害復興まだ済まず

今日も朝からテレビ番組が騒ぎまくっている。金メダルを手にした選手を主人公にしたドラマ仕立ての報道が。原発事故からの復興はどこへ行った? 新型コロナウイルスはどこへ行った? と嘆く声の中で、月末には最大の感染者数が記録された。

古い都々逸集の中にこんなのがあった。

ああしてそうすりゃこうなることを 知りつつそうしてこうなった

以上